



# 日本女医学会誌

復刊第 199 号  
2009 年 7 月 25 日発行  
題字 吉岡彌生

## 巻頭言

# 第 54 回定時総会を終えて —あなたがメンター、あなたがロールモデルです—

副会長 山崎トヨ

先の見えない世界的な不況の中で信じられない悲しい事件が目立つ昨今ですが、皆様にはお健やかにご活躍のことと存じます。

第 54 回日本女医学会定時総会が 5 月 17 日、大阪市にて開催され、ご出席の先生方 (20 代～ 90 歳) のご協力を得て無事に終了しましたことを心からお礼申し上げます。この度の開催に際し、日本女医学会大阪支部会員の皆様並びに大阪府女医学会の皆様の献身的なご尽力に深く感謝いたしております。天候にも恵まれ、メキシコ発新型インフルエンザに巻き込まれなかったのは何より幸運でした。

国際女医学会会長・平敷淳子先生と九州大学副学長・水田祥子先生のご講演は大好評でした。ご立派なメンターでいらっしゃるお二人の先生のお話を身近に拝聴でき、私たちの大きな励みになりました。

16 日夜の懇親会に先立ち、前日本女医学会会長・橋本葉子先生の叙勲を会員一同でお祝いいたしました。懇親会でのディナー、ソプラノにも大満足しオプションの宝塚歌劇観劇ではさらに大感激でした。コンパクトな日程でしたのに、すばらしいプログラムの企画と実行力のお陰で、忘れられない大阪の思い出ができました。ありがとうございました。

## 日本女医学会は若い女性の健康を守るために子宮頸がん検診と HPV ワクチンの啓発・普及活動を行います。

### 日本女医学会誌 (第 199 号) もくじ

巻頭言 ..... 山崎トヨ (1)

#### 第 54 回 社団法人日本女医学会 定時総会

日本女医学会定時総会概要 ..... 秋葉則子 (2)

【会長挨拶】 女性のため、自分のため、後に続く人のために ..... 小田泰子 (3)

#### 各賞受賞者と授賞理由

吉岡弥生賞を受賞して ..... 川田喜代子 (5)

吉岡弥生賞を受賞して ..... 溝口昌子 (6)

学術研究助成受賞に寄せて ..... 上野恵子 (6)

学術研究助成を授与されて ..... 小川葉子 (7)

学術研究助成を授与されて ..... 吉田穂波 (7)

第 54 回 日本女医学会総会を終えて ..... 野崎京子 (8)

講演会について ..... 西嶋攝子 (8)

懇親会について ..... 和田純子 (9)

オプション宝塚観劇会 ..... 吉馴茂子 (10)

講演会 「まさかの坂」をこえて—多くの人との出会い

..... 水田祥代 (10)

「Professionalism から考える leadership」

..... 平敷淳子 (12)

小野昌美 東京女子医科大学講師が「The Endocrine Society & Pfizer 国際優秀臨床研究論文賞」を受賞・小野昌美 (13)

追悼 今野信子先生を偲んで ..... 中山年子 (14)

#### 委員会報告

子育て支援委員会報告 ..... 対馬ルリ子 (14)

長寿社会福祉委員会より ..... 松井ひろみ (15)

第 3 回「在宅高齢者の栄養管理」講習会 ..... 小関温子 (15)

講演「現代の忘れもの」(連載第 3 回) ..... 渡辺和子 (17)

ハーバード留学記③ ..... 吉田穂波 (18)

日本女医学会よりご案内 ..... (20)

理事会議事録 ..... (21)

会員動静 ..... (24)

寄付者一覧 ..... (24)

編集後記 ..... (24)

# 第54回 社団法人日本女医会 定時総会



## 日本女医会定時総会概要

**開催日** 2009年5月17日(日)

**場所** ホテルグランピア大阪

(大阪支部連合会、本部)

開会に先立ち社団法人日本女医会総会定款に則って会員数1,655名、出席者数120名、記名委任者数558名、白紙委任者数193名、総会定足数552名に達したとの報告がされ開会が宣言された。会長の挨拶からはじまり、総会目次にしたがって会務報告から述べられた。

平成20年度会務報告では入会者69名、退会者94名、物故者27名であった。物故者に対して参加者全員で黙祷をささげた。

ナショナルコーディネーター内潟安子理事から第22回日本・アラブ女性交流事業としてヨルダン、シリア、エジプトへ表敬訪問、第23回同事業の訪日団受け入れ団体として活動したとの報告がされた。

つづいて会務報告として総会、理事会及び委員会報告がされた。

議事に入る前に議長団の選出があったが、会長一任として中野慧子会員(愛知支部)、斎藤恵子会員(岩手支部)を選任。議事録署名人(熊谷貴代千葉支部長、中山年子東京都支部連合会会長)も任命された。

### ■ 議 事

(1)平成20年度事業報告承認の件(津田副会長)

(2)平成20年度一般会計収支計算承認の件、剰余金処分案、平成20年度特別会計の承認の件(高原理事・濱田理事)

(3)会計監査報告(森川監事)

(4)平成21年度事業計画案(津田副会長)

(5)平成21年度一般会計収支予算案(塚田理事)

(6)定款改定について(松井副会長)

(7)新卒会員の会費について(山崎副会長)

(8)国際女医会西太平洋地域会議開催について(内潟理事)

(9)次期および次次期開催地に関する報告(小田会長)

(10)その他

以上、新卒会員の会費については否決、他提案された件については承認された。

### ■ その他

来年は、選挙の年であるので開催地は東京。その翌年は国際女医会西太平洋地域会議開催が東京と承認されたことで2年続けて東京で開催。東京での開催に向けて東京都支部連合会の皆様にもご協力をお願いする。

2011年、本部が主催することで了解を得た。

つづいて吉岡弥生賞授与が行われ、小田会長より社会部門として川田喜代子会員(大阪第2支部・大阪府女医会会長)、医学部門として溝口昌子会員(東京、中野支部)に授与された。

学術研究助成は上野恵子会員(栃木支部)、小川葉子会員(新宿支部)、吉田穂波会員(栃木支部)の3氏に授与された。

荻野吟子賞については応募者がなかった。

今回、会場の開会前や休憩時間に各委員会活動で行われた『嚥下障害、胃瘻造設者講習会』のビデオや日本・アラブ女性交流事業の訪日団の講演、パーティーの様子が映し出されたのは、良い試みであった。今後も各会員に日頃の事業の活動を知ってもらうためにも続けるのは良いことと考える。

なお、第54回社団法人日本女医会定時総会議事録は、厚生労働省の医政局医事課に過日提出しましたことをご報告いたします。(文責 秋葉則子)



[会長挨拶]

## 女性のため、自分のため、 後続く人のために

会長 小田泰子



日本女医会大阪支部連合会と大阪府女医会の皆さまのおかげで、今回「今より魅力ある女性医師に」をテーマに大阪府で総会を開催できたことに深く感謝申し上げます。

毎年申し上げていますが、「外に向かって声を出す女医会」、「活動が外から見える女医会」を目指して活動しております。会場の皆さんにもぜひ知っていただきたいのですが、今、日本女医会は「若い女性の健康を守るために子宮頸がん検診とHPVワクチンの普及・啓発活動を行います」という宣言をしています。これの有効性と費用などについていわゆる男性有識者・専門家による反対意見もあり、日本ではまだワクチンが認可されていませんが、他の多くの国々では女性の健康という観点から女性が中心になって、導入推進に動いているという事情がございます。日本女医会の宣言が生きることを期待しています。

また、日本女医会の存在が厚労省、文科省などに認知されるようになりました。独立行政法人からの助成金事業——今年は「子育て支援」と「胃瘻ケア」——を行っているばかりでなく、文科省の「若手医師の教育環境整備及び女性医師の復帰支援のための取り組み」事業の委員として日本女医会会員を推薦し、任命されました。このほか、会員を「看護教育」に関する委員に推薦して決定を待っているところです。このような形で、日本女医会は歴史と伝統、知性と実力を持った数少ない女性団体として認知度を高め、活動の範囲を広げて参りたいと希望しています。

今年も吉岡弥生賞、日本女医会研究助成について、立派な業績の方々に賞を差し上げることができました。このような会員は日本女医会の誇りです。各地で活動をしている方は、たくさんおいでになると思います。ぜひ来年はご推薦いただきたいと思います。また、昨年この会で吉岡弥生賞の財政危機を皆様にご報告いたしまして、ご寄附をお願いしましたところ、たくさんの方から思いがけず多額の寄附をちょうだいいたしました。深く感謝いたします。おかげさまで、後ほど会計報告で申し上げますが、吉岡弥生賞は当面の間、安泰になりました。そればかりでなく、日本女医会全体の財政状態にも少し余裕が生じたので、会員増強を目的として、新入会員、卒業1年目の会員の会費について役員会で検討して案をつくりました。後ほど審議事項として上げますので、ご検討いただきたいと思います。

それから、男女平等がいわれて久しいのですが、もともと男性がこの社会の実権を握っていたという歴史的な背景がありまして、今でも女性の権利が著しく障害されております。それにも関わらず多くの方から「何で今さら女医会か」という声が聞こえます。しかし、医師不足が言われ、医師国家試験合格者の30%超を女性が占めるようになったにもかかわらず、出産・子育てを機に職場を去らざるを得ない女性医師がたくさんいます。何年もかけて積み上げた医師としての技術と経歴、それが出産、子育て、家事、介護などのために継続できないのは個人としてばかりでなく社会的な損失です。日本は女性の人権というのでしょうか、男女平等というのでしょうか、そういうことについての配慮、達成度が低い国と思われれます。このことについては、まず当事者である女性が声を上げなければなりません。

### ●つくられた女性像

女性と仕事には長い歴史があります。もともと、女

性の仕事は家事だけに限定されていたのではありませんでした。18世紀以前は一部の上流階級を除いて、女性も男性と等しく農作業、商、手工業などの労働に従事していました。戦争は、女性の仕事に非常に大きな影響を与えました。身近な例では、第二次世界大戦中、戦地に赴いた男性にかわって、女性はいろいろな役割を完全に果たしました。職場を守ったのは女性たちだったのです。そして終戦間際に、日本政府は女性の働きを期待して、各地に女子医専をつくり、多くの女性医師を養成しました。大病院、工場、警察、駅員、県庁・市役所、このような職場はそれまでは女性の職場ではなかったのですが、そこに多くの女性が入り込み、男性の補助としてではなく、男性にかわって主体的にその職責を全うしたのです。ところが、戦地から男性が帰るや、女性は職を追われ、従前のような補助的役割につくか、家庭に戻るなどしてもとの男性優位の状態に戻っていきました。

アメリカでも同じことが起きました。アメリカでは、職場から女性を排除するために、政府はマスコミと協力して「結婚して子どもを持つ郊外の一戸建て住宅の主婦」という女性の理想像をつくり宣伝しました。このアメリカ型「理想の女性像」は日本にも波及しました。農村や個人商店、製造業の現場で働く女性たちのあこがれの女性像としてサラリーマン家庭の「専業主婦」が生まれたのです。しかし、間もなく専業主婦となった女性の中から「家事をして、子育てをして、一日を終える」ことは本当に幸せなのか、それだけの人生で良いのかという疑問が上がり始めました。当然のことです。つまり、専業主婦は、つくられた女性像ということになります。しかし、このアメリカ製女性像のイメージは、日本の女性から、なかなか払拭されません。

20世紀後半になって、家事を容易にする多くの家電製品ができました。そしてインスタント食品。インスタント食品は日本の即席ラーメンが最初のように考えられていますけど、インスタント食品の最初はケロッグのコーンフレークスだったそうです。そのような調理済みの食品が簡単に入手できるようになりました。

さらに20世紀後半、1970年代に広まったフェミニズム運動によって、法的には日本でも男女平等、男女の雇用機会均等が確保されました。その結果、女性の教育が行き届き、就職する女性も増えました。女性は男性の庇護がなくても生きていかれるようになりました。多くのベクトルが女性の家庭からの脱出、社会参加を指さしているのですが、まだまだ女性は男

性にかしづく存在であるという社会通念から、特に日本の女性は抜け出せておりません。家庭における女性は、男性のフルタイムヘルパーであり、職場でも家庭でも、男性はシニア=主で、女性はジュニア=従という関係です。さらに、日本では「男らしさ女らしさ」「男女の役割分担」「結果の平等を目指した女性優遇政策の是非」などがゴツチャになって論議されています。しかし、日本における女性の地位の低さは見逃すわけには参りません。

## ●総会を女性について考える機会に

2006年に世界経済フォーラムが世界各国の男女格差の度合いを指数化して、男女格差報告(Global Gender Gap Report 2006)を発表しました。それによりますと、日本における女性の地位は、世界115か国中79位で途上国並みの低さです。「役職が人をつくる」社会で責任ある地位につき職責を果たすことにより発言力や考え方が身につくという面がありますので、日本における女性の地位の低さは、二重の意味で見逃すわけにはいきません。このことについて女性がみな同じ認識と意見を持つことができると希望するのですが、女性の中にも、問題意識を持たない人、現状に満足している人、無関心な人、逆に既存の男性社会である程度の評価を得て、それで満足している人がいます。既存の男性社会で評価を得る女性は優秀な人が多いのですけれども、男性社会で活躍する女性にも、ぜひ女性の自主独立、地位向上、併せて日本女医会の存在意義について考えていただきたいと私は願っています。

会場においでの方の中には、それぞれの地域で「どうして今さら女医会なの、何でいまさら女性なの」と聞かれ、それを自分にも問い、問題意識を持っている方が多いと思いますが、せめてこの日本女医会総会が、日本女医会の存在意義を再確認し、女性の働き方、社会における女性のあり方などについて考える機会になることを希望します。

日本女医会の宣伝と女性の意識改革などを目的にして、日本女医会は、この総会までに『あなたらしいキャリアを創ろう～日本女医会からのメッセージ(仮称)』という本を出版する予定でしたが、間に合いませんでした。いずれ出版いたしますので、ぜひお読みになって、宣伝していただきたいと思います。

若い女性が直面している子育て、仕事の継続、キャリアアップなどの問題は、個人的な面が多く、外から介入するのは難しいように見えるのですが、「個人的なことは社会的なこと」なのです。慶應義塾大学商

学部教授の権丈善一先生が『医療政策は選挙で変える』という著書で「1票が世界を変える。1票が政治を変えるのだ。世の中の人々はみんな1票しか持っていないけど、1票の集約が政治だ」といわれています。女性、特に若い子育て中、研究中の女性が今、直面している問題を変えるのは政治なのです。そのような考

えを皆さんと共有できればと思います。

女性医師の皆さん、女医会に入会してください。友達をぜひ誘ってください。女性のために、自分のために、それから後続く女性医師のために、そして日本女医会のために。(拍手)

## 各賞受賞者と授賞理由

### ■吉岡弥生賞（医学に貢献した会員）

#### 中野支部 溝口昌子

昭和39年東京大学医学部を卒業後、皮膚科学を専攻、同大学大学院に進む。昭和45年にはニューヨーク州立大学に留学、帰国後には帝京大学皮膚科助教授を経て平成3年に聖マリアンナ大学皮膚科主任教授に就任。

平成16年には国際色素細胞学会連合の最高賞マイロン・ゴードン賞。長年にわたりたゆまぬ研究を続けてきた。

### ■吉岡弥生賞（社会に貢献した会員）

#### 大阪第2支部 川田喜代子

大阪女子医学専門学校を卒業後、耳鼻咽喉科を専攻。昭和28年、大阪市にて耳鼻咽喉科医院を開業の傍ら岐阜大学医学部で研鑽を積み医学博士の学位を取得。女性として初めて大阪市浪速区医師会理事、大阪府女医会会長、日本女医会役員、大阪府人事委員会委員など歴任。

これらの活動を通じて女性の地位向上に力を尽くした。また長年にわたる医師会、日本女医会をはじめ地域医療へ貢献した。

### ■学術研究助成

#### 栃木支部 上野恵子

64列CTを用いた心臓CT検査におけるX線被曝低減のための撮影条件の最適化

#### 新宿支部 小川葉子

慢性移植片対宿主病における線維化病態へのドナー由来線維芽細胞の関与

#### 栃木支部 吉田穂波

臨床疫学調査(コホート研究)にもとづく日本における女性医師の評価と解析

### 吉岡弥生賞を受賞して

#### 大阪第2支部 川田喜代子



平成21年5月17日、大阪において日本女医会第54回総会が22年ぶりに開催されました。その席上、日本女医会の伝統ある「吉岡弥生賞」をいただき、今、感激と感謝の気持ちで一杯でございます。小田泰子会長をはじめ選考委員の先生方、及び御推挙くださいました前日本女医会理事西嶋攝子先生、大阪支部連合会会長野崎京子先生、現理事吉駒茂子先生・宮本治子先生、現評議員米田桂子先生に改めて厚く御礼申し上げます。

私は、1950年に大阪女子医学専門学校（現関西医大）を卒業、京都大学医学部小児科教室に入局しました。その後、耳鼻咽喉科学教室へ移り、1953年に現在の大阪市浪速区日本橋（大阪では有名な電気屋街で難波や心斎橋の近くのたいへん賑やかなところ）で開業し、現在まで56年間、フルタイムで診療をつづけており、親子四代の患者さんも相当数おられます。その間、休診したのは二度の出産と二度の骨折くらいです。

1961年に女性として初めて（社）大阪市浪速区医師会理事に就任し、主人が同医師会会長になるまでの15年間つづけました。1976年より（社）大阪府耳鼻咽喉科医会理事に就任。全国でも珍しい耳鼻咽喉科医会美術部を立ち上げ、部員は家族も入れて100人余。毎年1月に開催の美術展は今年で27回を数えるまでになりました。1985年に女性医師として初めて特別職である大阪府人事委員会委員に就任。Ⅱ期8年をつとめ、大阪府所属の学校職員、警察官、府関係の病院職員等の給与や待遇のことを勉強しました。1991年から（社）日本女医会理事、2004年より2007年まで監事として3年間、計16年間毎月1回以上東京通いを致しました。そして、2002年より（社）大阪府女医会会長となり現在に至っております。

途中、大阪市学校医・園医永年勤続表彰や2003年には大阪府男女共同参画に功績があったとして“プリムラ大賞”(プリムラとは大阪のシンボルさくらそうのことで、辻久子氏や田辺聖子氏など受賞されています)をいただいたりも致しました。しかし、今回の受賞は、私の一番好きな言葉「継続は力なり」を先輩や周囲の先生方、そして家族や従業員との幸運な“出会い”があつての56年間の実践の賜だと、深く深く感謝しております。ほんとうにありがとうございました。

今後、この御厚情を心にとめ、生涯現役として地域医療にはげみたいと思っておりますので、どうか引きつづき御指導いただきますようよろしくお願いいたします。最後に日本女医会会員の増強(大阪の大会で18名の入会がありました)と会の発展を心から希<sup>ねが</sup>ってお礼の言葉にかえさせていただきます。

## 吉岡弥生賞を受賞して

中野支部 溝口昌子



このたび、日本女医会の吉岡弥生賞を授与され、大変光栄に、また大変嬉しく存じております。さらに、この受賞を機に吉岡彌生先生の偉大な業績とお人柄を知ったこと、また日本女医会のすばらしさに触れることができましたことは、大きな喜びでございます。

東京女子医科大学に24年間奉職した夫が私の受賞を大変喜んで、吉岡彌生先生の伝記を2冊くれました。先生の伝記を読み、これまで殆ど知らなかった明治初期の医師養成の事情、特に女性が医師になることがいかに困難だったかを垣間みることができました。多くの困難と闘い、医学を学びながら、女性が医師になる道を切り開いていかれた先生の偉大さの一端を知りました。これまで自分なりに努力をしてきたという自負が見事に打ち砕かれ、いかに恵まれた環境で勉強・仕事をしてきたかを痛感し、改めて恩師、同僚、友人、家族に感謝の念で一杯になりました。長年多忙な私に代わって子供を育ててくれた義母は、現在末期癌で治療の方法もなく、自宅で緩和ケアをしておりますが、この義母に賞状と盾を見せることができました。

日本女医会に入会させて頂いたのは20年ほど前になりますが、総会に出席したのは今回が初めてでした。1つ1つの議題に活発な議論を重ね、出席者の挙手により議決を取る議事の進め方に目を見張りました。

た。男性が牛耳る殆どの日本の学会の総会は、議論はわずかで拍手をして議題が次々と通っていきます。なんとという違いでしょう。実にすばらしいと思いました。日本女医会の多方面に及ぶ活動を診療でお忙しい皆様がなさっておられることも知り、感動致しました。

私は4年前に聖マリアンナ医大を定年退職致しましたが、在職中にもっと女性医師の問題に取り組むべきであったと反省しております。現在の医学・医療が抱える厳しい諸問題が、ようやく上向いてきた女性医師の環境を圧迫しないよう、偉大な吉岡彌生先生のご努力が無駄にならないようお願いしつつ、老いの身で若い方々の邪魔にならずに何かできることはないかと考えております。

## 学術研究助成受賞に 寄せて

東女医学内支部 上野恵子



このたび、研究課題「64列CTを用いた心臓CT検査におけるX線被曝低減のための撮影条件の最適化」に対し日本女医会学術研究助成を賜り、心より御礼申し上げます。

日本女医会とは第11回ワークショップ『手に触れて画像診断』を担当させていただいたのが御縁で、その後も第43回総会が地元の栃木県で行われた際に、実行委員の一員としてお手伝いさせていただきました。その際に、多くの先生方と直接お話しをさせていただき、先生方の生涯自己研鑽なされている御姿に深い感銘を受けたことを覚えております。

私は東京女子医科大学卒業後、放射線診断学を専攻し、消化器放射線科時代には画像診断を駆使した腹部領域の癌の早期発見、進展度診断並びに癌性疼痛に対する神経叢ブロックや膿瘍ドレナー等のIVRを中心に臨床と研究を行ってまいりました。東医療センター赴任後は、心臓循環器領域にも研究範囲を広げてきております。最近では、近年の循環器画像診断領域では最も関心を集めている研究課題の一つである、心臓CT検査におけるX線被曝低減のための撮影条件の最適化を研究の一主題としています。64列以上の多列CTを用いた心臓CT検査は、非侵襲的な検査法として冠動脈病変の評価に有用で、本邦を含め多施設で施行されております。しかし、マルチスラ

イスCTはこれまでのCTに比べ、X線被曝量が多く、発癌のリスクが問題となっております。この問題に対し、我々は2007年より被曝低減ソフトを導入し、画質を維持しつつ、可及的な被曝低減を試みております。本研究の目的は、同ソフトを用い、さらに一步進んだ64列CTを用いた心臓CT検査における撮影条件の最適化を行うことにあり、ファントム実験や他施設との共同比較研究も行うことにより、エビデンス化することにあります。一昨年より中国の北京病院との共同研究も開始しており、これらの研究成果が被曝による発癌のリスクを国際的に軽減させる一助になればと考えております。

最後に日本女医会会長の小田泰子先生はじめ選考委員会の先生方、本研究の口火をきってくれた埼玉医科大学放射線科の木村文子先生、本研究に御協力頂いている東医療センターの先生方ならびに診療放射線技師の方々に深謝いたします。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 学術研究助成を 授与されて



新宿支部 小川葉子



このたび、研究課題「慢性移植片対宿主病における線維化病態へのドナー由来線維芽細胞の関与」に対し学術研究助成を賜りまして心より深く感謝申し上げます。私は慶應義塾大学医学部眼科にて造血幹細胞移植患者様の前眼部病変について、19年間専門外来を担当させていただいております。

眼移植片対宿主病 (GVHD) は造血幹細胞移植後の重篤な難治疾患であり瞼球癒着を伴う重症ドライアイなどの重篤な眼表面障害をきたします。造血幹細胞移植は血液悪性疾患の根治療法として確立されていますが、移植後の晩期合併症としての眼GVHD難治例に対する対策の重要性が増しています。そのため眼GVHDの発症機構、病態形成過程の解明、新規治療法の開発が必要です。

これまでの私たちの研究から慢性GVHDドライアイではドナー由来線維芽細胞が病態形成にかかわる可能性があります。今回の研究では、ドライアイの主な標的臓器である眼GVHD線維芽細胞の由来について、マウスGVHDモデルを用いて検証し、病態形成に関わる役割を明らかとすることを目標としていま

す。従来のドライアイの分野、およびGVHDの研究はリンパ球を中心とした免疫応答に主眼がおかれていましたが、線維化に着目した研究は少ないようです。本研究課題から得られる研究成果は眼GVHDだけでなく眼類天疱瘡、スチーブンスジョンソン症候群の重症ドライアイなどの多くの線維化疾患の病態解明と、線維化抑制の新規治療法の開発に結びつく可能性を秘めていると考えられます。今回学術助成を受賞させていただきましたことを生涯忘れず大切に、今後の研究と臨床への還元を目指して役立てていきたいと思っております。

今回の受賞に際し、小田泰子会長をはじめ選考委員の諸先生、会員の諸先生に深謝致します。第54回総会に日本女医会総会に出席し、平敷淳子先生、水田祥代先生の御講演をはじめ先輩後輩の女医諸先生の活発な討論や医師としての素晴らしいお考えや姿勢に感動致しました。お昼のお食事の時は大森安恵先生をはじめ諸先生とお話を間近でさせていただき温かいお言葉や励ましをいただきました。諸先生を目標にこれからがんばりたいという気持ちがわいて、たくさんの活力をいただきました。本当にありがとうございました。今後共どうぞ宜しくご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 学術研究助成を 授与されて



栃木支部 吉田穂波 (米国留学中)



現在までの間に、欧米各国では女性医師、女性看護師、および女性医療従事者に関する大掛かりな研究がいくつも行われ、キャリアウーマンの中でも特に医師という職業を選択した女性の健康状態、人生設計および社会的サポート、ストレスや精神衛生、職業衛生が医療に及ぼす影響についてのアプローチが試みられてきた。1995年のデータでは、米国において医療分野で女性医師が十分に能力を発揮し、キャリアを継続できない場合、社会に与える経済的損失は年間2億円ともいわれている。また、女性医師の健康状態や生活習慣、家庭状況が患者に与える影響は計り知れない。そこで、日本における女性医師の現状を、臨床・研究・教育面での業績及びメンタル・ヘルス、リプロダクティブ・ヘルスのアプローチから多変量解析し、女性医師が自己価値

観を高め、生きがいを感じながら働き続けるための疫学調査研究を行う。米国での女性医師について書かれた調査研究や記録の量はおびただしく、1995年より全米の大学でWomen's Physician's Health Study (WPHS)という1万人規模の大規模な調査研究が行われてきた。また、Harvard School of Public Health (以下HSPH)においては、1965年より女性医師に関する研究が継続して行われており、参加者は7万人に上る。このような大規模疫学研究を行うためには調査期間や対象範囲の予測、統計手法の検討を始め、質問表の検討・試作、検体保存方法やパイロットスタディ試作までおおよそ1年間の準備期間が必要であり、HSPHの専門家と検討を重ねながら日本における女性医師の現状を統計学的・疫学的な手法を用いて解析する方法を構築していくことになる。

現在、欧米各国ではいかに病気を治すかという治療からのアプローチが限界を迎えており、予防及び疫

学の分野へと医学研究の注目が集まっている。プライマリーケアおよびHealth Care Education, Health Promotionでは動物実験による基礎研究や人体における研究ができないため、臨床疫学・統計学の重要性が高まっている。臨床統計の分野では女性医師が能力を発揮しているため、統計学的・疫学的な手法を用いて解析し、大局的な視野から確実な結果を出すことは、女性医師の働き方におけるひとつの試金石ともいえるであろう。将来女性医師が患者にとって最も適切な臨床判断・治療方針を決定するまでのプロセスを疫学的背景から解析し、日本の医学教育の中でどのように健康管理学を普及させればよいのか、どのようにすれば女性研究者が力を発揮できるのか、という課題を解明していくことは、女性ばかりでなく全医師のヘルスケアとキャリア育成のために貢献すると考えられる。

## 第54回 日本女医会総会を終えて

大阪支部連合会会長 野崎京子

清々しい新緑の候となってまいりました。2日間にわたって行われました日本女医会評議員会・総会が無事終了しましてほっといたしております。これもひとえに小田泰子会長はじめ執行部の先生方、そしてご参加の先生方、また事務局のお蔭と深く感謝しております。私どもが不慣れなため、また新型インフルエンザが大阪でちょうど流行し出して騒然としてきたところでしたので、何かとご不便があったと思いますがお許し下さい。

実は大阪開催をお引き受け致しましてから、私は少々悩みました。前回の日本女医会総会大阪開催から22年も経ち、私自身も私の周辺の会員もお手伝いをした経験が全くなかったからです。それと最近の大

阪地区の経済的地盤低下に加え、昨年からの世界経済危機の影響も心配されました。そこで時間的にも経済的にもコンパクトにして運営しやすく、また参加して頂きやすいように工夫を致しました。さらに日本女医会とは別組織である大阪府女医会のご協力をお願い致しました。

総会開催のお手伝いを通じての感想としまして、

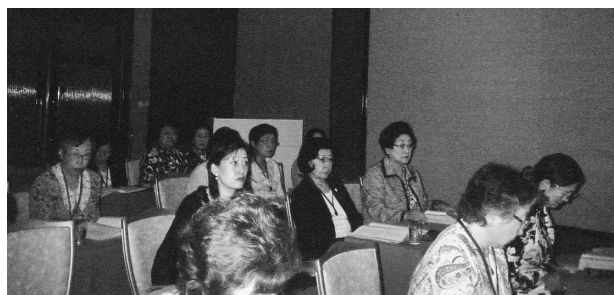
1. あまり開催年数をあげすぎない方がいいように思いました。前回経験のノウハウの記憶が多少残っているうちの方がやりやすいかもしれません。
2. 各地域で状況は違いますが、開催地が決まった最初の段階で、本部と支部とが話し合い、開催準備についての指示系統・窓口を統一しておいた方がいいと思います。

現在、大阪の十支部の活動が少し沈滞しております。今回の総会のお手伝いがてことなりまして、大阪での日本女医会活動が活性化していきますよう祈る次第です。

## 講演会について

大阪第7支部 西嶋攝子

講演会では国際女医会会長・埼玉医科大学名誉教授である平敷淳子先生による講演I「professionalismから考えるleadership」と九州大学理事・副学長であ







る水田祥代先生による講演Ⅱ『「まさかの坂」をこえて——多くの人との出会い——』の二つの講演を拝聴した。平敷先生には当日の朝ウィーンから関西空港へ到着後、会場に駆けつけて頂いたが、関西では折からの豚インフルエンザ流行騒動で空港での検疫に手間取るのではないかと危惧し、水田先生に先にお話し頂くこととなった。

人生には上り坂、下り坂、「まさか」の3つの坂があると言われるが、昔から女性には周りとは違ったことをすると、このまさかがついて回る。水田先生は幾たびにもおよぶまさかの坂を越え、その間に多くの人との出会いを経験して来られた。先生のご略歴はプログラムにも記載されていますが、当時は大きく険しかった「まさか」、現在でも驚くほど困難な「まさか」の「さか」を明るく楽しく話され、会員一同大いに元気づけられた。水田先生がとても残念に思うこととして、女性医師の10%が「働く必要がないから」という離職理由をあげていることがあります。彼女達が一度でも先生と接する機会があれば、その考えが変わるのではないかと思った次第です。

2年前に Participation, Communication and Visibility を掲げて国際女医会会長に就任された平敷先生は、世界中を飛び回ってのご活躍ですが、医師は常に自分自身から、患者から、医師同士から、医学会から、社会から competence (力量) が問われる。そのため competence に裏づけされてはじめて医師としての評価の土台に乗るのであるが、医師の professionalism は competence が他の専門職と大きく異なると話された。そして“リーダー”として意義のある存在とは、知識、指導力はいうに及ばず、人格、性格が明るく、その場の空気や環境を包括し、短期的、長期的な判断が出来ることだ、という結論には、先生の人生観から湧き出る信念を感じて圧倒された会員も多かったことと思います。

平敷先生のご講演は吉馴茂子理事が、水田先生のご講演は西嶋攝子が座長を務めました。

## 懇親会について

大阪第5支部 和田純子

記念写真の撮影を終え、定刻の7時半、懇親会が始まりました。朝から小雨の降るあいにくのお天気でしたが、宝塚歌劇を堪能された一行75名も加わってくつろいだ雰囲気でした。まず野崎京子大阪支部連合会会長の開会挨拶を頂きました。次いで小田泰子会長のご挨拶と進みました。当初、平松邦夫大阪市長代理で出席予定であった大阪市健康福祉局首席事務監の寺川和彦先生が、直前に欠席との連絡が入りました。ところが急遽駆けつけて頂き予定通りに来賓のご挨拶を下さいました。(18日以後の神戸と大阪は新型インフルエンザの拡大で大変な事態になり、対応に追われる様子や事態はテレビや新聞の報道でご存知の通りです)。引き続き大阪府医師会会長、酒井國男先生から女性医師が働きやすい環境づくりを応援したいとのありがたいご挨拶がありました。

「瑞宝重光章」を授与されたく橋本葉子先生叙勲お祝い>に移りました。小田会長の祝辞、花束の贈呈に続き、橋本先生には持参いただいた勲章を見せていただきながら、皇居での受章の様子、受賞者を代表して天皇陛下にお礼を述べられたことなどを伺いま



受章のご報告をされる橋本先生

した。女医会会員一同の盛大な暖かい拍手が会場に満ち華やかな雰囲気に包まれました。後半は川田喜代子先生の乾杯の音頭で会食、楽しい歓談の時となりました。アトラクションは河村さと子・ソプラノ独唱で、パヴァロッティの追っかけの楽しいお話しを交えてドイツ語とラテン語のアベマリア、オペラのアリ



アと素晴らしい歌声が響きました。番外の川田先生との二重唱の赤とんぼ、出席者参加の「今日の日はさよなら」の斉唱と続き、食事と共に堪能していただいたようです。予定の時間を15分過ぎて、吉馴理事の閉会挨拶となり、名残りつきない懇親会でした。

## □ オプション宝塚観劇会

理事 吉馴茂子

今回宝塚歌劇観劇については実に多くの皆様からご満足の評価を戴き誠に有難うございました。用意したS席チケット75枚は完売、前日からホテルグランビアに宿泊された方は55名でした。総会の参加登録者総数は149名でしたので、オプションにはちょうど50%に近い会員の参加があったという結果になります。

さて宝塚歌劇は今年で創立95周年を迎えました。戦後あちこちにありましたレビュー劇団がSKDを始め次第に解散のやむなきに至った現在、日本でレビューの灯を守り続けているのは、ここ宝塚だけになりました。宝塚が今に至ってなおも人々の心を捉えて離さないのは、創立からの厳正な規律が今も舞台に妥協



せず生き続け、そのことが人々の心情に訴えて止まず、他に類を見ない鉄壁のファン層の厚さを作り上げていると思うのです。

さて当日5月16日(土)は朝から晴れ、我々は意気揚々とAM9時にホテルを2台のバスで出発。到着後は集合写真に入ったり、皆様、修学旅行生のように見物に緊張気味で徘徊されました。AM11時に開演すると、まず今年度初舞台生の勢ぞろい。恒例のラインダンスが初々しくも華やかに披露されたのです。続いて宙組76名による素敵なミュージカルが上演され、昼食後は期待の総出演のレビューです。見事に訓練された華麗なダンス。特にあの大階段を30kgの羽を背負い、男役も娘役も、ともかくとっておきの美女軍団が一斉に駆け下りて来る様は誠に美しく思わず目から星、ファンにならざるを得ないほど感動的でした。何しろ階段は一段が20cmだと聞いてからは、よく落ちないものと敬意を感じ、流石の日本女医会もこれには脱帽でした。時来たり、げにうらぶれて我らは又バスでドッコイショと興奮冷めやらず皆してホテルへの帰路についたのでした。今回の総会はこの華やかさが2日間ずっとベースに確かに継続していたというのが我々実行委員の密かな思い入れです。



## 講演会

### 「まさかの坂」をこえて —多くの人との出会い—

水田祥代 (九州大学理事・副学長)

人生には3つの坂があると言われております。のぼり坂、下り坂、そして3つ目は「まさか」です。昔から、女性は周りとは違うことをすると、この「まさか」がついて回ります。

しかし、神話に出てくる医神の中にはなんと女神が多いことでしょう。古代エジプトの最高の女神であるイシスや雌ライオンの姿をして戦闘と疫病の神として恐れられたセクメトをはじめ、ギリシャの医神には太

陽神アポロンの双生児の妹であるアルテミスやゼウスの娘エイレイテユイアが、東洋においても疱瘡を治す疱瘡神として中国の麻娘娘(マジョウジョウ)やインドのシータラーなどの女神がいました。そして、日本では安産、子授け、子育ての神としての鬼子母神がいました。

その後の教会を中心とした中世医学では、女性には暗黒の時代が続きました。1421年、すでに女性を



医学界から追放するための請願書がヘンリー5世に提出されたという記録が残っていますし、英国発の女性外科医 Dr.

Barryは1812年にエジンバラ大学を卒業後、1859年まで軍医として勤務しましたが、いつも男装し、その生涯を男性として送ったとされており、死後初めて女性であったことが判明しております。20世紀になっても女性医師への偏見は依然として強く、米国オレゴン州医師会長は難しい勉強が女性の性的願望を失くしてしまい、美しさを奪い、ヒステリーや神経衰弱や消化不良や乱視や月経困難をもたらすと述べています。

しかし、今日、時代はめぐり、このようなストーリーな過渡期を経て、女性も男性もお互いに人間として尊重し合いながら、それぞれの己れに合った生き方を求めることが可能となり、医の神、アスクレピオスの娘たちはスカートを翻し、メスさえも持てるようになりました。

最近の、医学部入学者や国家試験合格者の中で女性が占める割合は30%を超え、近い将来女性医師4割になろうとしています。しかし、女性医師の実数をみますと登録数とはかなりの差があります。その原因として女性医師は20代後半から40代前半にかけて結婚、妊娠、出産、育児のために離職する人、離職せざるを得ない人が多いからです。

卒後25年までの全国大学病院の女性医師たちの離職理由をみますと、62%が妊娠、出産、子育てとなっています。45歳以下のみではその数はもっと増え、80%近くになります。また、年代が上に行くほど、介護のためという理由が増えます。この調査をしておりまして、とても残念に思ったのは、約10%の方が、その離職理由に「働く必要がないから」と記載していたことです。せっかく医師という専門職の資格をもちながら、また教育を受けていながらと悲しい気持ちになりました。そのパートナーの方々も含めてもう一度じっくり考えていただきたい課題です。

最近、国や大学を始め、社会的に女性医師の離職を防ぐための環境整備をなんとかしようという動きが高まっています。以前から私たち女性医師はこのようなことについて問題提起をしてきましたが、ずっと無視され続けてきました。医師需給問題が起こったこと

で女性医師が注目されてきたことは皮肉なことです。厚生労働省や日本医師会等をはじめとして女性医師の労働環境を考える協議会などが動いています。また、多くの大学で女性医師や女性研究者の支援への取り組みが活発になっています。しかし、現実として女性研究者の環境は厳しく、このような支援のエンドポイントは何かということや、その方法などに支援する側とされる側の想いにずれがあることも事実であり、両立支援は迷走している面も多々あります。

私は6歳のときに麻疹から中耳炎となり九州大学病院に入院し、それ以来お医者さんになることを夢見て、1966年九州大学を卒業し、学生時代は小児科を志望していましたが、立川米空軍病院でインターン中にベトナムから送られてきた兵隊さんが、手術であつという間に元気になったことに、外科はなんと単純明快であろうかと感激し、外科に入局しました。イギリスでの2年間の小児外科研修後、九州大学第2外科でのトレーニングを経て、1979年小児外科学教室の開設とともに小児外科講師、福岡市立子供病院外科部長、九州大学小児外科助教授を経て、1989年教授となり、2004年から2008年の3月まで九州大学病院長をつとめ、2008年10月からは九州大学理事・副学長に就任しました。もちろんその間、「まさか…」はついて回りましたが、私はその時その時を大切にし、楽しんできました。

私が主宰しました小児外科学教室に、15年間に入局した男性医師は34名、女性医師は17名です。この17名の女性医師の経歴を見てみますと、3年間の臨床研修後に研究や留学、結婚、離婚、出産などを経験し、17名中13名が学位を取得し、小児外科専門医、外科専門医を取得しています。結婚した9名の方は1～3人のお子さんも育てています。妊娠、出産で休暇を取った人や、麻酔科や眼科、行政に転職した人はいますが、離職した人は一人もおりません。ある年の同時入局の3人(女性1人、男性2人)についてその後の経歴を見ますと、女性医師の場合、結婚、出産、育児後に研究に戻り、さらには行政に転職したりで、学位取得は同期の男性医師に比べ遅れましたが、現在は課長職で地域医療を担っています。次の年の2人(女性1人、男性1人)の場合、女性医師は海外留学や離婚も経験しましたが、学位取得も専門医取得も教官への昇任も同期の男性医師と全く同時でした。さらにこの女性医師は昨年6月に再婚し、出産という嬉しいニュースもありました。

このように素晴らしい、能力ある女性医師はたくさんいます。この女性医師達の活躍を促進するために

は何が一番必要なのでしょう？

保育所を作ったり、当直をなくしたりするサポートはもちろん必要ですが、根本は男性、女性を問わず「意識改革」です。上司や男性同僚の方には常にフェアであってほしい。チャンスもフェアに与え、評価もフェアにしてほしい。私は教室を主宰する教授として常にこれを心がけました。一方、女性医師の方は、医師であることを喜び、誇りを持つこと、そしてそのとき、そのときの自分のプライオリティを決めてほしいと思います。人間が一人で一度にできることには限度があります。キャリアを重ね、子育てもすることは大変です。そのようなとき、今自分にとって何が

一番大切であるかを考えてください。休んでゆっくりすることも、人に頼むのも決して悪いことではありません。一生のうちにそのようなひと時も大切にしてほしいと思います。ありがたいことに医師や研究者は一生勉強することができます。自分の意志さえあれば育児中でも勉強できます。皆さんたくさん勉強してください。声を上げて周りの人にサポートをもらってください。一生懸命な人をほっておくようなことはありません。

“Create your dream, follow it and make it happen.” これは私の好きな言葉です。夢を持ち続け当たり前、颯爽と「まさかの坂」を越えましょう！

## 「Professionalism から考える leadership」

国際女医会会長 平敷淳子

“Participation, Communication and Visibility”を掲げ、アフリカ西海岸の国ガーナの首都アクラで国際女医会会長に就任し、はやくも2年が過ぎようとしています。

国際女医会は1919年、ニューヨークで3名の女性医師により創立されました。現在世界76カ国、約10万人の会員がいます。理事会は会長、前期、次期会、事務局長、財務担当理事と財務委員会の委員長と世界8つの地域からの副会長の計14名で構成されています。昨今の理事会は、Skypeを用い、インターネット回線を通して行われています。自宅にいながらにして、議事進行から決議までの会議がなされています。

会長就任時には、「理事会の守秘義務」と「理事相互の尊敬」とを強調しました。この2つはボランティアとして多くの時間と労力を費やす仕事に大切なことと考えての宣言でした。

私は放射線診断医としての道を医学部4年生のときに考え、シナリオをつくり、現在に至るまで、ほぼその通りに歩んでいます。専門医としての私を支えているものは「The professionalism」<sup>1)</sup>です。今

年の医学会新聞で、日野原重明先生は医師としての適性を3つあげています。1. Learned Profession (修得された知的職業)、2. Mission (使命感)、3. Compassion (感

性豊かでいとおしむ心のある人間性)です。

医師には常にcompetence (力量) が問われます。まずは自分から、患者から、医師同士から、医学会から、社会から。competenceに裏づけされてはじめて、医師としての評価の土台に乗るといっても過言ではないでしょう。医師としてのプロフェッショナルリズムとはこのcompetenceが他の専門職と大きく異なることだと思います。知識や指導力はいうに及ばず、人格や性格が明るく、その場の空気や環境を包括し、短期、長期的な判断が適切にできるとき、はじめて“リーダー”として意義のある存在となりうると考えます。

今、私のあゆんだ路を振り返り、常にありたい自分、あるべき自分を意識し、自分を信じて歩んできました。今どこにいて、どこにいくのかを時系列的に整理し、さらに周囲との関係を回転座標軸上で考え、自分の路線を敷いてきました。人のコピーでない人生！そのなかでゆっくりとコンポーズする時間をつくり、今、なにを、なんのためにしているか立ち止まって反芻することの大切さも学びました。

リーダーとして輝いて医師としての専門職に従事するために「孤立しない」と「良いmentor」との出会いを提言します。<sup>2)-4)</sup>

### 〈参考文献〉

- 1) www.professionalism.org
- 2) “Every Other Thursday” by Ellen Daniell, Yale University Press, '07
- 3) “This side of Doctoring, Reflections from Women in Medicine” by Eliza Lo Chin, Oxford University Press, '03
- 4) “The Power to lead” by Joseph S. NYE, Jr. Oxford University Press, '08



# 小野昌美 東京女子医科大学講師が 「The Endocrine Society & Pfizer国際優秀臨床研究論文賞」を受賞

東京女子医科大学第2内科・講師 小野昌美



私は、1982年に母校の東京女子医科大学、第2内科でプロラクチン（PRL）の向卵巣直接作用の研究で博士号を取得しました。その後、PRLと共に成長ホルモン（GH）、GHRH、Somatostatinに関する基礎的、臨床的研究を三木現准教授とともに続けてきました。これまで国内では1999年にNovo Nordisk Growth賞、2001年に日本女医会学術研究奨励賞、2007年に日本内分泌学会若林賞を受賞し、また国際賞として2001年の第30回国際GH・成長因子シンポジウムでBest experimental poster awardを共同受賞しました。多忙な毎日ですが研究と共に診療、教育にも励んでいます。診療では間脳下垂体疾患を中心とする内分泌疾患を担当し、全国津々浦々から来院される患者さんを毎月300～350人診療しております。

今回の受賞論文は、発売前から注目していた新世代のドパミン作動薬カベルゴリンを用い、1999年8月の発売直後からPRL産生下垂体腫瘍（プロラクチノーマ）患者を前向き治療した初期成績をまとめたものです。患者の多くは以前のドパミン作動薬には抵抗性、不耐容性で、これは我々医師にとっても深刻なジレンマでした。我々の治療成績は、日本内分泌学会学術総会、間脳下垂体腫瘍学会、さらに脳神経外科学会総会等のシンポジウム、教育講演で発表する機会を与えられ、本剤がプロラクチノーマの第一選択の治療手段として認知されることに大いに貢献しました。

去る6月に、米国内分泌学会から2008年度「The Endocrine Society & Pfizer国際優秀臨床研究論文賞」を受賞いたしました。この賞はThe Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism (JCEM)に掲載された論文のなかで、毎年最も優れた臨床研究論文4篇に授与される賞です。JCEMは内分泌代謝部門では最もインパクトファクターの高い権威ある雑誌ですので、私にとってこの上ない名誉と感激しております。日本人としては多施設共同研究で受賞された小児内分泌の先生方に続いて2番目の受賞ですが、単一施設に属する日本人研究者としては初めての受賞になります。女性としても初めての受賞です。6月12日に米国ワシントンDCのグランドハイアット・ホテルで開催された表彰式と晩餐会に招待され、論文・著者・施設の名前の入ったオーク製の表彰額と副賞として1万ドルの賞金を拝受いたしました。

私の受賞論文タイトルは「Prospective Study of High-Dose Cabergoline Treatment of Prolactinomas in 150 Patients」で、内容はホルモン産生下垂体腫瘍の中では発生頻度が最多で、深刻な不妊をきたすプロラクチン産生腫瘍（プロラクチノーマ）をドパミン作動薬カベルゴリン（商品名カバサル）で前向きに治療した成績です。独自の個別症例化した治療戦略を組み立てたこと、そして高プロラクチン血症の世界最高の正常化率を達成したことが評価されました。論文審査の最終段階でタイトルから「Individualized（個別症例化）」という英単語を削除することを要求されましたが、論文掲載号のEditorialで米国の高名なMolitch博士から本論文の内容につき極めて好意的で詳細なコメントをいただきました。面識はなかったのですがMolitch博士はプロ

ラクチノーマの最高権威であられるので、相当の高い評価を受けているのではとの思いを密かに抱いておりました。それから数ヶ月後に、本賞の審査員長を兼任するJCEM編集長Baumann博士の突然の電子メール（Important notice from JCEM）で授賞の知らせが届き大変驚いた次第です。

授賞式の余韻と緊張感が残っている中、翌日の13日から4日間の日程で米国内分泌学会が始まりました。その1日目のMEET-THE-PROFESSORセッション「ドパミン抵抗性プロラクチノーマの治療フォーラム」の配布資料の本文中に、私の受賞論文が著者名付きで掲載されていることに気づき大変誇らしく感じました。忌憚なく申し上げれば、本賞を受賞したことよりも必読文献に選ばれたことのほうが医学的な意義は大きいのではないかと考えています。治療のスタンダードとして多くの臨床医から永く参照されることになるからです。そして何よりも重要なことは、これまで不妊に悩んできた多くのプロラクチノーマ患者の性腺機能低下を回復し将来妊娠できる道筋をつけたことです。現在幾つかの前向き臨床研究を行っていますが、今後も日本から世界へ向けに内分泌疾患の診断や治療指針を発信できるよう自助努力を続けて行きたいと思っています。

最後に、論文の執筆に当たり辛抱強く叱咤激励してくださいました第2内科、脳神経外科の共同研究者の諸先生方に心から御礼申し上げます。また、今回の受賞の喜びを分かち合ってくださいました学内外の先生方にも厚く御礼申し上げます。今後とも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 追悼

## 今野信子先生を偲んで



東京都支部連合会会長 中山年子

日本女医会元東京都支部連合会長の今野信子先生が現役医師として95歳で6月14日に逝去されました。筑波科学博の医療奉仕をするために創立された支部連合ですが、その中心であられた先生のご苦勞は筆舌に尽くし難いものがありました。

当時、関係当局との折衝に故明石み代先生と走り回られた、炎のような日々が続きました。

前例のないことばかりで呆然としている私に「皆で力を合わせて前進すれば必ず成功します。人の和が一番大切ですよ」と、にっこりと言われたのは頭が下がると同時に、驚きました。そして、人を信じて任せる、しかし全ての責任は自分にあるという潔い覚悟が皆を率いる原動力なのだと言われました。

科学博は関係当局の絶大な賞賛と成功の裡に終了しましたが、女医会は学術団体なのだから機会あるごとに勉強をしなくてはと役員会の折にミニレクチャーを企画して下さいました。専門外の勉強を

する機会が少なくなっている我々にはありがたい機会ですが、先生は常に学問に対して真摯な態度で臨まれました。

戦前・中・後の動乱期を乗り越えて来られたお話には、人間はよくぞ耐えることができるものよと只々感じ入るのみでしたが、一言も愚痴をこぼさず話して下さいる御姿は、天性の資質なのだと思嘆いたしました。

26年ぶりで国際女医会議が東京で開催され、皇后陛下の行啓を仰ぎましたが、皇后陛下は車椅子の先生に、親しく優しくお言葉を賜り、先生をお労い下さいました。この時の先生はまさに「臣信子」そのものであり、こんな嬉しいことはないと何回も何回も思い出して感激しておられました。

昨年、日本女医会より「吉岡弥生賞」を受賞された時の晴れやかなお顔と共に忘れることはできません。

長い間、甘えてばかりの私どもですが、これから行先を誤らぬように天上から灯台の灯のように指示して下さいませ。お願い申し上げます。

「さようなら」は申しません。いつまでも私どもの傍らで先生が笑顔で見守って下さると信じております。

最後に、先生に申し上げる言葉は、只々ありがとうございますと心からの感謝です。これから私どもは先生のお教えを守って、仲よく支部連合を続けていきます。

今野信子先生、どうぞ安らかにお休み下さい。

## 委員会報告



### 子育て支援委員会報告

理事 対馬ルリ子

「十代の性の健康」支援ネットワーク作り事業（通称ゆいネット）は、第2年度に突入しました。福祉医療機構からの助成金を得て行われているこの事業は、親や教師が対応に苦慮する若者の性の問題に対して、健康支援、健全育成、犯罪防止の立場から、地域で横断的に支援のネットワークを構築しようとするもので、昨年モデル地区として連絡協議会を開催した札幌、盛岡、名古屋、岡山の各地域では、今年度は具体的事例への考察をもとに連携の実際について検討を重ねております。

6月24日午後2時から開催された札幌での第2回連絡協議会は、昨年の評判を聞いた関係者から次々に

参加希望があり、また、警察からも管理的立場のかたの出席があって、30名の出席者のもとで、活発に事例紹介や対応に関する問題提起などが行われました。小中学生の援助交際、家庭での性的虐待、くり返される強姦事件など、さまざまな窓口のどこにもフォローされない事例がたくさんあり、たどたどわかっていても対応しきれずに埋もれてしまう実態が推察されました。貧困と、無知と、逸脱した性行動、犯罪とその被害が連鎖

していく悪循環を、心あるおとなの連携によってどこかで断ち切らなくてはなら



ないと思いましたが。会議後に会費制で行われた懇親会にも12名ほどの参加があり、「今後も地域で独自に連絡会を続けていこう」との提案も出て、やはり“顔の見える”連携が大事であると実感いたしました。

7月23日盛岡、9月10日名古屋、11月7日には岡山で同様の連絡協議会を開催するとともに、次年度のモデル地区も募集してまいりたいと思います。

地域のため、女医会や女性医師が核となって子供たちの健康と将来を守りたいとお考えの皆様、どうぞこの事業にご参加くださいますよう、ご連絡をお待ちしております。



### 長寿社会福祉委員会より

副会長 松井ひろみ

多くの受講者に好評であった「たんの吸引を安全に行うための講習」と同様、引き続き、独立行政法人福祉医療機構から助成を受け、「在宅高齢者の栄養管理」を20年・21年の2カ年で実施しております。20年度は名古屋・四谷の2ヶ所で行い、それぞれ100名・70名の参加者があり、有意義な講習になりました。

5月22日に本年度の第1回長寿社会福祉委員会を開き、6月13日神奈川、7月4日岐阜、8月8日北海道、11月7日群馬での講習会開催を決定し、更に予定として富山・埼玉等の検討をいたしました。

6月13日に行った神奈川の講習会は130名の受講者があり、盛大で熱気のある素晴らしい会になり、本年度の良いスタートになりました。当地域で御苦労頂いた小関理事に感想・所見等をお願いしております。

御協力下さいました皆様に心から御礼申し上げ、今後とも多くの方々のご参加・ご支援をお願い致します。

### 第3回「在宅高齢者の栄養管理」講習会

小関温子

今回は、神奈川県主催で6月13日(土)午後1時から4時まで、崎陽軒本店6F会議室にて開催されました。

高齢者が増加している現状から在宅で家族の介護や介護施設を利用することが多くなり、なかには嚥下障害が問題となる場合が少なくありません。

当日は看護職、介護職、介護に携わることご家族、一般の方、医師などのご参加を頂きました。100名予定のスクール形式の会場に補助椅子50以上が追加されて何とか参加者の方々には座席について頂きました。

総合司会は三軒茶屋病院院長、前理事大坪公子先生が担当されました。先生ご自身が病院で「胃瘻栄養」

に関わっておられるので今回の企画、準備、製薬会社との交渉、試供品、製品見本のご用意などのご協力を頂きました。



講演は前理事、藤田保健衛生大学教授山本綾子先生が、ビデオをみながら嚥下の解剖学的説明から始まり嚥下障害に関する理解と感染、経口栄養に代わって経管、経静脈の栄養そして最近では「胃瘻」を造設しての「胃瘻栄養」などをお話下さいました。参加者の中には山本先生のご講演内容をパソコンに打ち込んでいた数人の男性がいました。正しい知識を記録していたものと思われます。「先生のお話はスーッと頭に入りとても分かりやすくお上手ですね!」「時間の調整をして駆けつけた甲斐があって、参加してとてもよかった!」など会場での会話が私の耳にも入ってきました。また、嚥下障害のリハビリや食事の工夫など、コメディカルの話も参考になりました。

「胃瘻造設、その管理」については外科医である新大宮クリニック院長団野誠先生のお話はユーモアを交えた(皮下脂肪の多い人は胃瘻を作る必要ないなど)会場内をリラックスさせて笑いを誘うお話は安心感をもたらしました。

栄養食品、機器の紹介や展示ブースの見学に次いで、経管流動注入の方法と経管流動食品について実習が行われました。会場の後部座席の方には見づらかったようで反省すべき点でした。

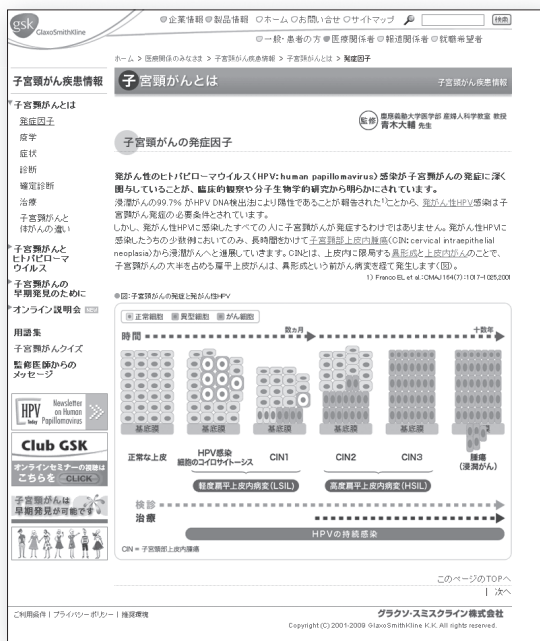
最後に、副会長の松井ひろみ先生は閉会の辞で「日本女医会設立は1902年で長い歴史があり、今回の講習会もその活動の一端であります。この講習会は福祉医療機構の助成を受けております。2008年11月に厚生労働省が介護の将来像を示す『安心と希望の介護ビジョン』を示した、介護の質の向上を目指していることから、今までの医療行為の一部が療養介護職や看護職、家族の方に広く行われるようになることも近いと思われます」と、力強いメッセージを会場の方々に送られていました。

今回は開催までの準備期間が1カ月もなく、日本女医会の先生方を始めとして同窓の先輩、後輩の先生方、さらに、神奈川県医師会副会長馬嶋正剛先生ご夫妻のご協力を得て、多くの参加者と内容のある充実した講習会をもてましたことにこの紙面をおかりして心から感謝と御礼を申し上げます。



# 子宮頸がん疾患情報

<http://glaxosmithkline.co.jp/medical/cervical/index.html>



▲子宮頸がんの疫学、診断、治療、および発がん性HPVについて、簡単にご紹介しています。

グラクソ・スミスクラインでは、弊社の医療関係者向けwebサイトに、子宮頸がんの疫学、診断、発がん性HPVとのかかわりなどについてご紹介した「子宮頸がん疾患情報」コーナーを開設しております。

また、本コーナーでは、疾患啓発小冊子のオンラインオーダーなどもご利用いただけます。ぜひ、ご覧ください。

### オンライン説明会



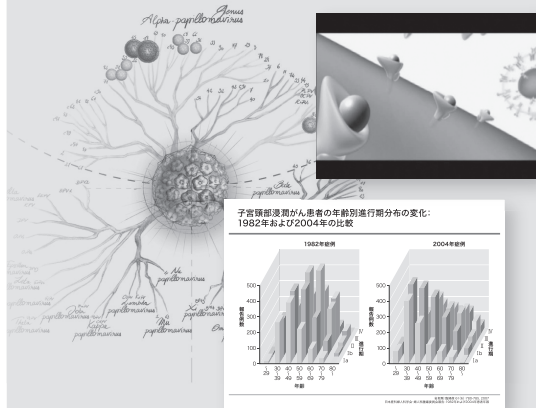
▲子宮頸がんおよびHPVに関する情報を、スライドショー形式でご紹介します。

### 子宮頸がんクイズ



▲子宮頸がんについての知識をクイズ形式でご確認いただけます。

メール情報サービスGSK eダイレクトにご登録いただけますと、**会員専用サイトClub GSKのオリジナルコンテンツ【子宮頸がんライブラリー】**もご利用いただけます。クリップアートやスライドのダウンロードなど、先生のご診療やご講演にお役立ていただけるコンテンツをご用意しております。



## 子宮頸がんライブラリー

- **オンラインセミナー**  
・「子宮頸がんは予防できる」～ワクチンと検診の精度管理～ 等
- **アニメーションビデオ**  
・アニメーションビデオ『HPVと子宮頸がんの発症』
- **クリップアート**  
・生殖器(女性)  
・HPV-子宮頸がん  
・免疫関連 等
- **スライドセット**  
・疫学(スライド枚数:10枚 745kb)  
・ヒトパピローマウイルスと子宮頸がん(スライド枚数:20枚 1661kb)

ご登録はこちら → <http://glaxosmithkline.co.jp/medical/cervical/infoclubgsk.html>

[資料請求・問い合わせ先]

**グラクソ・スミスクライン株式会社**  
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15

TEL: 0120-561-007 (9:00~18:00 / 土日祝日および当社休業日を除く)  
FAX: 0120-561-047 (24時間受付)  
<http://www.glaxosmithkline.co.jp>

15CM0014



## 連載 第三回

## 第53回 日本女医会総会 講演会

## 「現代の忘れもの」

195号でご紹介させていただいた渡辺和子先生のご講演の全文を連載として紹介させていただいています。



## 「カルカッタ」をみつけた人

マザーのご講演から1年半経ったころでしょうか、私は一人の卒業生から手紙をもらいました。ちょうど前の年に大学を卒業して、岡山の商業高校で国語を教えておりました。「シスター、私は、去年の3月、シスターから卒業証書をいただきましたが、今年、初めて卒業生を送り出す身分になりました。私の教えていたクラスの中に、学業的にも家庭的にも問題のある女生徒がいました。その女生徒が、卒業式が終わって出て行く時にクルッと私のところに戻ってきて『ヒロセ先生だけは、私を身捨てないでくれた』と言って、またスタスタと校門を出て行きました。私は一体、何のことを言っているのか分からなかったけれども、よく考えてみると、その生徒と授業中に目が合った時に、私は努めて微笑んだと思います。そのことをもしかしたら言ったのかもしれませんが」と。

ヒロセ先生だけは、私を身捨てないでくれた。他の教師達にとっては、お荷物、いない方がいい、あてても何も答えられない。目が合ったら教師の方が目をそらす、合わせまいとする。そんな経験をしていた女生徒が、ヒロセという新卒の国語の教師だけが、目を合わせ、しかも微笑んでくれた。『ああ、今日も来たのね。あなた、座っているだけで良いのよ』という無言のメッセージを送っていたらしいんです。で、そのあとに、その新卒の教師は「私は4年間シスターから嫌というほど微笑みの大切さを聞きました。キレイごとだと聞き流していた……。今度、初めて微笑みの効力、チカラをしりました」と書いておりました。

『ヒロセ先生は、目をあわせてニコツとしてくれた、無視しなかった。ヒロセ先生だけは私を身捨てないでくれた』そのことがこの女生徒にとって生きる力となった。その後、その生徒がどう生きているのか存じません、就職したのかもしれない

ん。いずれにしても時折落ち込んだ時に、ヒロセという新卒の教師の微笑みを、目を合わせた時の優しさを忘れないで生きる勇気ももらっているかもしれません。そして嬉しかったのは、このヒロセさんは、マザーテレサのところに奉仕に行きたいと申し出た学生達の一人だったのです。「来なくてもいいのですよ。周辺のカルカッタで喜んで働く人になって下さい」と言われた一人なのでございました。このヒロセさんは自分が勤めた岡山の商業高校で、そのクラスの中にカルカッタをみつけ笑顔で働いた……。私たちにいま大切なのは、こういう『いたわりの心』、『優しさ』、『笑顔』なのだろうと思うのです。

【次号へつづく】

## 渡辺和子 先生 (シスター渡辺) Profile

昭和2年旭川生まれ。父上は渡辺錠太郎陸軍教育總監(陸軍大将)。昭和11年(9歳)、二・二六事件により、父上が銃弾に倒れる姿を目撃するという衝撃的な体験をされる。その後、雙葉高等女学校、聖心女子大学をご卒業、昭和29年上智大学大学院を修了。昭和31年(29歳) ナミュール・ノートルダム修道女会に入会。同会よりアメリカに派遣されボストン・カレッジ大学院にて哲学博士号を取得後、帰国。昭和38年、36歳という異例の若さでノートルダム清心女子大学学長にご就任(平成2年まで)。昭和49年岡山県文化賞受賞。平成2年ノートルダム清心女子大学名誉学長、学校法人ノートルダム清心学園理事長。平成4年～平成13年 日本カトリック学校連合会理事長。

ご活躍の陰でご苦労も多く、50歳の時にはうつ病の経験も。しかし病を乗り越え、学生たちを常に温かく見守り、教育者として、シスターとして多方面で功績を残していらっしゃいます。

著作『心に愛がなければ』『信じる愛、持っていますか』『人をそだてる』(PHP文庫)など多数。

留学記  
3

### 夫婦一緒にドイツから英国を経てアメリカへ留学

—夫は感染症科、妻は産婦人科医で働く女性医師の生き方を追求—

栃木支部 吉田穂波

ハーバードでは臨床に携わってはいないのですが、世界各国での臨床経験を踏まえ、女性海外留学で得た「女性総合外来で患者さんを診るにあたって感じたこと」のヒントをご紹介します。それは、産婦人科だけでなく他の科にも応用できることばかりです。

#### ドイツ編；女性患者と医師が対等の視線で、時には議論しながら話し合える環境



大学院修了後1年間臨床研修をしたドイツ・フランクフルトでは、オープンシステムが定着しており、看護師・助産師に外来・訪問看護・処方などの権利が

与えられ、医師不足を補うようになっていました。自分自身の妊娠・出産も経験したことで、女性にとって敷居の低いドイツの受診環境、乳がん・子宮がん検診がすべて保険適用となる制度、そして医師と患者様がフランクに話し合える関係に感銘を受けました。女性にとって、女性の医療従事者に診察してもらうだけが女性外来ではないのです。コミュニケーションの時間を十分取り、きちんと説明してもらう、安心し、納得して、今何が行われているのか、今後どのようにすれば自分の健康にとってプラスになるのか、をきちんと把握することが大切なのだということを、ドイツの臨床を通じて実感しました。

ドイツに住んでいる日本の患者様は、ドイツの医師から見るとこのように写ります。「いつもニコニコしていて、外来で質問はない？」と聞いても、OK！と笑って答える。お産のときはじっと痛みを耐え、とても静か」……しかし、日本人患者様と話す中で、担当医には直接聞けなくても、治療内容や薬の用量に不安を抱えていることを知り、それまで自分が診察室で座っているだけでは知りえなかった患者様側の気持ちがよくわかりました。この経験が日本で女性総合外来を担当するようになって非常に役に立ったのです。

#### <ここで学んだポイント>

- ・検査結果、治療法はできるだけ紙に書いて渡すようにする。よく処方する薬についてはパンフレット、印刷物を用意しておくのも効果的。そうすれば患者様は帰宅後に改めて医療情報を Review することができ、外来で聞いただけではよく分からなかったことを確認でき、安心する。
- ・医療者側としては「何か質問はありませんか」と聞くとき親切なように考えがちだが、より具体的に「検査結果について、ご不安な点はありませんか」「薬の飲み方はわかりましたか」など、細かく分けて患者様が答えやすいような質問をする。
- ・「馬鹿な質問をしたら笑われるのでは」という患者様の躊躇を汲み取り、「私の勉強のためにも、何か説明不足な点がありましたら教えてください」と付け加える。



#### イギリス編；女性の自己価値観を高めるよう、尊重する態度で



イギリスでは無料で医療を提供するNHSというシステムのもとで総合医が定期健診や妊婦検診を行います。無料で医療を受けられる一方で予約は2カ月先、

エコーなどの専門的検査は3カ月待ち、とアクセスが制限されており、医療費削減と周産期医療レベルの維持のためにはコ・メディカルが果たす役割がとても大きく、まずは保健師さん、看護師さんに話を聞いてもらってから検査や処方をするという体制でした。

イギリスのGP (General Physician) は、家族全員で受診するかかりつけ医のような存在です。3カ月にわたり、GPの外来を見学させていただいた中で感じたことは、性別、年齢、人種により患者様に対する接し方を使い分ける必要がある、という、非常にシンプルな原則でした。もちろん、性別に関わらず、相手の性格パターンによってもアプローチ方法を変えると、患者様とのコミュニケーションがうまくいき、こちらの提案を受け入れやすくなります。診療の合間、GPの先生方に患者様への接遇について質問したところ、ヨーロッパ及び北欧諸国では医学部在学中に患者様とのコミュニケーションを学ぶ機会が多く、中でも、



医学生と被検者モデルのやり取りをビデオに撮り、あとからビデオを見て臨床心理士を含む講師陣からコミュニケーション方法について

指導を受けるという話をお聞きました。

その中で、女性患者様を相手にするときには、医師の外見が与えるインパクトが大きいため、身なりに気を使う、笑顔で対応することを心がけているという話が印象的でした。自分が礼儀正しく、きちんとした身だしなみで対応することは、女性の自己価値観、あるいは自尊心を満たし、心地よく受診することを促すということでしたが、これはイギリスに限らずどこの国でも言えることでしょうか。身なりに気を使うといっても白衣を着て威厳をかもし出すというわけではありません。むしろ、先に述べたドイツでもイギリスでも外来で医師が白衣を着ることはなく、私服で患者様に接することによって、より親しみやすい診察の場を作るようにしていました。白衣を着なければ医師と見なされないのではないかと考えていた私にとっては、それまでの思い込みを覆される経験でした。

#### <ここで学んだポイント>

- ・女性患者様にはできるだけ丁寧語で、目を見て、話をささげらずに最後まで訴えを聞くことで、相手をとっても大切に思っているということを態度で示すことになる。
- ・GPのように家族も同伴してもらおうと家族背景や生活環境を知る手がかりとなり、その後の服薬や治療方法に対し家族の理解や同意を得られやすい。「次回は娘さん（ご主人、お母さん）も一緒にいらしてくださいね」と声かけをすると患者の信頼を得やすい。

#### アメリカ編；EBMに基づいた説明を



アメリカは個人の持つ保険によって受けられる医療の内容が全く変わってしまいます。ハーバードで臨床見学をする機会を得た中で、同じ循環器疾患であるにもかかわらず、ある患者には血液検査および投薬をし、別の患者には血圧測定のみで終わることがたびたびあり、不思議に思っていました。指導医にその理由を聞くと、「この患者は〇〇

保険（＝国民健康保険のような公的保険）だから」「この患者はプライベート保険だから」という答えが返ってきたため、経済状態（略してSES; Socioeconomic Status）によって医療の格差がこれほど大きく変わるということに愕然としました。アメリカは訴訟大国のため産婦人科医は州によって毎月300万円もの賠償保険金を払わなければならない状況であり、産婦人科個人開業医はチームを組んで5～8人のグループ開業という形態を取っていました。

アメリカは訴訟社会といわれますが、それは、人種、宗教、生活習慣、SES、病気に対するリスクなど全てにおいて多様な患者様を相手にそれぞれ異なる判断をすることが大変難しいため、専門家にジャッジしてもらわないと収拾がつかないからであるとも言えます。訴訟を防ぐため、カルテに診断記録を残すこと、きちんと説明して患者が納得したというインフォームド・コンセントを取ることで、そして日々の外来診療の中ではきちんとエビデンスに基づいた治療をしているのだという根拠を示すことが重要です。現在私がハーバード大学に留学したのも、自分が自信を持って根拠に基づく治療をしたいと考えたからでした。女性患者様と接していて「本当にこのお薬は赤ちゃんに影響がないのですか」「このお薬を飲んで下痢を起こしたのですが関係はないですか」「検査の異常値が出た場合、がんになる確率はどのくらいですか」と質問されるたび、患者様に安心して帰っていただけるよう、様々な研究論文や資料をお見せしてご説明する必要性を痛感しています。

#### <ここで学んだポイント>

- ・女性患者様は素人のように見えても実はいろいろなメディアで勉強されていることが多い。「医療の中で100%絶対に信頼できるというデータはないが、今のところはこのような見解が広く認められており、患者様へのメリットがあると思うのでお勧めします」と専門家らしい根拠に基づいた説明をすると安心していただける。新聞の医療欄、インターネットの医療サイトをコピーしておいて手渡すと、患者様向け



に分かりやすく書かれているため医師の説明よりも頭に入りやすい。また、眼から入る情報量が多いため納得しやすい。

## 日本女医会よりご案内

### 日本女医会 吉岡弥生賞 推せんについて

平成21年「日本女医会吉岡弥生賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。

締め切り期日は、平成21年12月25日までに願います。なお、次の書類を添えて、ご推せんをお願いします。

1. 自筆履歴書
2. 業績  
イ) 医学に貢献した現会員。  
ロ) 社会に貢献した現会員。
3. 推せん理由

### 日本女医会 荻野吟子賞 推せんについて

平成21年「日本女医会荻野吟子賞」受賞の適格者を、本会理事または支部長宛にご推せんくださるようお願いします。会員・非会員を問いません。おもに地域医療に貢献された方を対象としています。

締め切り期日は、平成21年12月25日、候補者の経歴、業績と推せんの理由を記載し、推せん者の氏名、捺印をもって提出してください。

### 地域医療奉仕活動 に対する助成のご案内

平成21年「地域医療奉仕活動」に対し助成を致しますのでご案内申し上げます。

各地域において医療、公衆衛生等の奉仕活動を行っている日本女医会会員を主体とするグループを対象と致します。応募の締め切りは、平成21年12月25日、申請書は事務局にありますのでお問い合わせください。

(社)日本女医会 事業部

## 第29回 学術研究助成のご案内

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請くださるようお願いいたします。

### 1. 助成の趣旨

医学分野の発展向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

### 2. 助成金額

1件30～50万円(3件)

### 3. 申込手続

#### (1) 応募資格

入会継続3年以上経過した日本女医会会員で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

#### (2) 助成期間

1年を原則とする。同一人が重ねて申請する場合は、3年以上の間隔を置く。

#### (3) 応募方法

本会所定の用紙に、黒インキまたはワープロで記入。

1通を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

#### (4) 締切期日

平成21年12月25日必着

#### (5) 選考および発表方法

選考委員会において選考の上、平成22年2月開催の日本女医会理事会において決定し、申請者宛通知する。

#### (6) 助成金の贈呈

平成22年5月開催の日本女医会総会の席上。

#### (7) 受賞者の本会に対する義務

平成23年3月末日までに研究経過報告(A4原稿用紙2枚程度)と助成金用途についての簡単な収支報告を提出すること。

#### (8) 送り先

社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7

☎03-3498-0571

## (((理事会議事録)))

**日 時**：平成 21 年 2 月 28 日(土)  
午後 3 時

**場 所**：社団法人日本女医会 会  
議室

**出席者**：小田、松井、山崎、秋葉、  
安部、内潟、小関、古賀、  
川村、澤口、澁谷、高原、  
塚田、対馬、濱田、藤川、  
宮崎、宮本、矢口、山田、  
山本、吉馴、森川、中井  
(以上 24 名)

**欠席者**：津田、荒木、田中 (以  
上 3 名)

1 月理事会議事録を承認

### 【会長挨拶】

1. 「日本・アラブ女性交流」を無事  
終えることができ皆様に感謝を申し上げたい。

皆様にも良い経験になったと思う。まだ報告書の作成があり、内潟先生にはご苦勞をかけているが、素晴らしいものができると思っている。

2. 明日は奈良でブロック懇談会があるが、医師会と初めての合同開催となる。今後も医師会と一緒に女性医師の問題を検討できる会になればいいと思う。

3. 「あなたらしいキャリアを創ろう」の原稿書き、大阪総会、2010 年ドイツ・ミュンスターの国際女医会議、2011 年の西太平洋地域会議と準備が続く。皆さんの叡智を集めて前に進んで行きたいと思う。

4. 豪徳寺にある高橋瑞子さんの石碑に関する投書が来ている。日本女医会でどう対処するか、議題に出しているのご意見を聞かせてほしい。

5. 男性の労働意識を変えるため、男性の育児休暇取得者に優遇措置を与えるなどの提言をする時期にきているのではないかと。

6. HPV ワクチンを承認していないのは日本と北朝鮮だけ。12 歳女性全員に接種することにより 190 億円の節約になるとの報告もある。

7. 退会者が多い。個人的なお声かけが効果的であるので皆様をお願いしたい。

### 【報告事項】

1. 庶務報告 (古賀理事)  
2 月 8 日、日本女性薬剤師会「一般社団法人設立記念祝賀会」に出席  
(松井副会長)

2. 会計報告 1 月分  
(濱田理事) 承認

3. 事業部報告 (藤川理事)  
次年度の事業部として、医学会女性部会でのネットワーク作りを検討

4. 渉外部報告  
1) 2 月 4 日、健やか親子 21 推進協議会「第 8 回総会」に出席  
(松井副会長)

2) 2 月 27 日、国際人権規約完全実施促進委員会・勉強会に出席  
(矢口理事)

5. 学術部報告 (内潟理事)  
2 月 1 日開催の「日本・アラブ女性交流」のフォーラムに 117 名が参加。日本女医会として恥ずかしくないような報告書を作成中。外務省、NGO、取り扱い業者と検討中

6. 広報部報告 (対馬理事)  
1) 会誌 197 号の会誌の原稿を募集中  
2) 澁谷理事より厚生労働省の依頼により「国と特に密接な関係がある特例民法法人への該当性について(公表)」をホームページに掲載したとの報告

7. 委員会報告  
1) 子育て委員会 (対馬理事)  
連絡協議会を 2 月 4 日に岡山で開催。3 月 15 日開催の「報告会」へ参加要請  
2) 長寿社会福祉委員会  
(松井副会長)

2 月 7 日に「在宅高齢者の栄養管理講習会」を開催

3) 女性医師支援委員会  
(藤川理事)  
「あなたらしいキャリアを創ろう」出版に向けて順調に進行中

8. NC 報告 (内潟理事)  
資料 2 に基づき 2010 年ドイツ・ミュ

ンスターで開催の国際女医会議の紹介  
9. その他の報告

1) 3 月 6 日群馬県女医会で「平成 20 年度女子医学生、研修医等をサポートするための会」を開催の案内 (山田理事)

2) 「国連女性デー」の案内 (対馬理事)

3) 2 月 14 日札幌で開催された BPW 総会会場で日本女医会の「HPV ワクチン」アピール文を 300 部配布 (濱田理事)

### 【審議事項】

1. 第 54 回定時総会について (吉馴理事)

現在のところ 64 名の申し込みがある。各々の申し込み内容をチェック。

2. 平成 21 年度事業計画案および予算案 (資料 3)

1) 各部より「資料 3」に基づき説明がある。

庶務部：昨年と同様

学術部：ホームページに学術部サイトの立ち上げ

事業部：日本医学会・分科会 女性部会との公開フォーラムを開催希望

渉外部：昨年と同様。「国際機関との交流」を「国外女医会との交流」に変更

広報部：ホームページをリニューアル

子育て委員会：助成金事業の継続及び小児救急事業の継続

長寿社会福祉委員会：助成金事業の継続

女性医師支援委員会：出版本の発行

ナショナル・コーディネーター：2010 年の国際女医会議参加と演題の募集、さらに 2011 年の西太平洋地域会議の開催に向けて

2) 吉岡弥生賞、荻野吟子賞、学術研究助成に共通する「決定と授与」の「決定」を削除

3) 次回の理事会でもう一度計画案と予算案を検討する

3. 日本・アラブ女性交流事業の会計について

予算として日本女医会から50万円、外務省から約80万円、使途をどのようにするか検討中

4. 国際女医会西太平洋地域会議について学術部からの提案

2011年の開催地、開催時期等、学術部を中心とした小委員会を作り、素案を作成する。

5. ホームページについて(資料4)

- 1) 更新する「会員トップ、ユーザートップ、支部トップ、支部詳細」を承認。
- 2) 学術部のページ作成は承認されたが、各部のページを作ることも検討する。
- 3) 休止中の「こころと体の相談室」の復活も承認される。最終的には週一回、更新ができるように協力の要請
- 4) 吉岡弥生賞受賞者一覧、荻野吟子賞受賞者一覧、学術研究助成受賞者一覧をすぐにHPに載せる。

6. 日本女医会入会勧誘文(資料5)

A4一枚に「日本女医会しおり」と勧誘文が一体になった勧誘文を各自考えて、3月20日までに提出。現在の活動を中心として入会後のメリットも記載する。

7. その他

- 1) 高齢者の栄養管理講習会の今後の開催について  
7月4日(土)岐阜、8月8日(土)札幌、11月7日(土)前橋で開催。それぞれの地区担当の理事より説明
- 2) 公許女医3号の高橋瑞子さんの石碑について  
世田谷・豪徳寺にある「高橋瑞子彰功碑」に関する問い合わせがあった。  
小関理事が一度、豪徳寺を訪問し、何ができるかお話を伺う。
- 3) 厚生労働省実施の「女性の健康週間」に日本女医会も関連団体として申請しては、との意見が藤川理事より提案され、承認される。
- 4) 本日、厚生労働省から依頼のあった「女性チャレンジ賞」に日

本女医会として応募することを決定。対馬理事が申請書を書く。

5) 山崎副会長より各賞選考結果の発表

吉岡弥生賞 医学に貢献した部門：溝口昌子会員(中野支部)

社会に貢献した部門：川田喜代子会員(大阪第2支部)

学術研究助成：上野恵子会員(栃木支部)、小川葉子会員(新宿支部)、吉田穂波会員(栃木支部)

**日時**：平成21年3月28日(土) 午後3時

**場所**：社団法人日本女医会 会議室

**出席者**：松井、山崎、津田、秋葉、安部、内潟、小関、古賀、澁谷、田中、高原、塚田、藤川、宮崎、宮本、矢口、山田、山本、吉駒、森川(以上20名)

**欠席者**：小田、荒木、川村、澤口、対馬、濱田、中井(以上7名)

2月理事会議事録を承認

**【会長挨拶(津田副会長代)】**

役員皆様のご協力により、20年度の会の運営が滞りなく終了できたことへの謝辞があった。

**【報告事項】**

1. 庶務報告(古賀理事)  
3月1日に奈良にてブロック別懇談会を開催し、奈良県医師会の先生方と有意義な交流が持てたとの報告。小田会長、松井副会長、山崎副会長、小関理事、古賀理事、宮崎理事、宮本理事、吉駒理事の8名が参加した。
2. 会計報告 2月分(高原理事)承認  
今後は会誌発行の支出に関し、委員の旅費を別立てで明記する。
3. 事業部報告(田中理事) 特になし。
4. 渉外部報告(山本理事) 特になし。
5. 学術部報告(内潟理事) 特になし。
6. 広報部報告(宮崎理事)

1) 会誌198号の発行に向けて4月8日に編集会議を予定

2) 日本女医会勧誘文の改訂を検討。

7. 委員会報告

- 1) 子育て委員会(澁谷理事)  
3月15日に最終報告会を東京で開催。20年度報告書を作成し、福祉医療機構「子育て支援基金」に提出予定。21年度も同基金より助成予定である。
- 2) 長寿社会福祉委員会(松井副会長)

20年度報告書を作成し福祉医療機構「長寿社会福祉基金」に提出予定。21年度も同基金より助成予定である。

21年度は「在宅高齢者の栄養管理講習会」を7か所で開催する予定。

3) 小児救急子育て委員会(山崎副会長)

3月7日委員会を開催。3月15日に埼玉で講演。

改訂版作成予定であるが、特定企業名を入れるか否か検討中。今後も日本女医会の継続事業としたい。

8. NC報告(内潟理事)

日本・アラブ女性交流事業の報告書を作成。カラーは部数が少ないため、役員にはCD-Rで配布の予定である。

**【審議事項】**

1. 第54回定時評議員会、定時総会の議題等について(古賀理事)承認
- 1) 資料に基づき検討。議題に「定款改正」を追加。
- 2) 進行表は4月の理事会で作成。
- 3) 評議員会・総会の会場で開始前は「胃瘻、たんの吸引のDVD」を流し、報告中は日本・アラブ女性交流事業等の写真等、議題と関連のある写真を流す予定。写真等希望のある部は事務局に申し出ること。
- 4) 吉駒理事より、現在のところ101名の申し込みがある。宝塚も残席があり、参加への依頼があっ

た。

2. 平成21年度事業計画案および予算案について 承認  
資料を基に検討された事業案及び予算案を会務報告に掲載する。
3. 日本・アラブ女性交流事業報告書について (内潟理事)  
事業報告書はカラー印刷55部とCDRで作成。日本女医会には報告書40部とCDRが5枚送付される。理事にはCDRのコピーを配布予定。
4. ブロック出向による理事会開催日変更と予算について (古賀理事) 承認
  - 1) ブロック別懇談会の名称を今後は「ブロック懇談会」に改称。
  - 2) 9月13日(日)に福島で開催。
  - 3) 11月15日(日)に兵庫で開催するため、理事会を14日(土)に変更を承認
  - 4) 平成22年2月頃に福井より開催のオファーがあった。
  - 5) ブロック懇談会の出張費として予算60万円を計上したい。
5. 子育て委員会「小児救急」の予算について 承認  
日本女医会の継続事業のため委員会活動費として30万円の予算を申請。
6. 日本女医会入会案内パンフレットについて 承認
  - 1) 資料に基づき検討。リーフレット・会長のことば・若い医師に向けての案内文の3種類を作成。
  - 2) リーフレット印刷はデザインも含め見積りも一番安いのでユートさんに依頼。 継続
  - 3) 研修医に関する会費、賛助会員向け案内は今回の理事会で継続審議。 継続
7. NC交代について 承認  
役員全員で内潟理事をサポートしてもう一年継続して願います。
8. HPの支部便りに子育て情報掲載について 承認  
・支部ごとに子育て支援に関しての情報をHPに掲載してはどうかとの提案が小田会長よりあった。
9. 職員給与について 以上

**日 時**：平成21年4月25日(土)  
午後3時

**場 所**：社団法人日本女医会  
議室

**出席者**：小田、津田、松井、山崎、秋葉、安部、荒木、内潟、小関、川村、古賀、澤口、澁谷、高原、田中、対馬、藤川、宮崎、宮本、矢口、山田、山本、吉馴、中井、森川 (25名)

**欠席者**：塚田、濱田 (2名)

3月理事会議事録を承認

#### 【会長挨拶】

1. 大阪での総会が近づいて来た。大阪の会員の皆様、役員の皆様の協力をいただき、良い総会になりそうである。
2. 次回総会は東京で開催予定。東京都支部連合会の皆様のご協力をお願いしたい。
3. 日本・アラブ女性交流事業の立派な報告書が内潟先生のお陰で完成し、関係者に配布できた。
4. 厚生労働省が新医師研修制度の見直しについてパブリックコメントを募集した。緊急であったが、いろいろご意見を頂き日本女医会からのコメントを出すことができた。HPへの掲載を検討していただきたい。
5. 文部科学省から「若手医師の教育環境整備及び女性医師の復帰支援」のための取り組みに対する選考委員の推薦を受けた。会長・副会長で検討し対馬先生を推薦したのでご承認いただきたい。
6. 日医の女性医師シンポジウムに多くの方の参加を希望している。松井先生のお陰で「女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告書」を本日配布できた。
7. 今年の医師国家試験合格者は、7,668人で内女性は2,622人(32.9%)である。女性医師は無視できない存在となった。後輩の働きやすい環境整備のために知恵を出し合って行きた

い。

8. 日医が作成した新しいCM、勤務医の男性と女性医師編を紹介。
9. 古賀先生のご尽力により、ブロック懇談会は兵庫、福島、石川各県から開催承諾を得ている。できるだけ多くの方のご参加をお願いしたい。
10. 7月25日に札幌で第5回日医男女参画フォーラム開催される。

#### 【報告事項】

1. 庶務報告 (小関理事)  
松井副会長より公益認定等委員会「新しい公益法人制度に関する相談」へ行ったとの報告。(4/22)
2. 会計報告 (高原理事) 3月分を承認。
3. 事業部報告(田中理事) 特になし。  
藤川理事より事業の一つ「女子医学生との交流」に関し、国際医学生連盟から連絡があったとの報告。
4. 渉外部報告 (松井副会長)  
4月10日、国連NGO国内婦人委員会役員会に出席。7月8日に開催される国連NGO国内婦人委員会総会で日本・アラブ女性交流事業報告」を矢口理事が行う。
5. 学術部報告(内潟理事) 特になし。
6. 広報部報告 (秋葉理事)  
会誌198号の編集会議を4月8日に開催。4月23日に会誌198号を全会員に発送済み。
7. 委員会報告
  - 1) 子育て委員会 (対馬理事)  
20年度報告書を会員へ発送。4月26日に今年度の第一回委員会を開催。
  - 2) 長寿社会福祉委員会 (松井副会長)  
20年度報告書を会員へ発送。「在宅高齢者の栄養管理講習会」を6月に神奈川、7月に岐阜で開催。
  - 3) 女性医師支援委員会 (荒木理事) 特になし。
8. NC報告 (内潟理事)  
日本・アラブ女性交流事業の報告書を作成。役員にはCD-Rで配布。

#### 【審議事項】

1. 定時評議員会、定時総会の最終

- 打ち合わせについて 承認  
資料に基づき評議員会総会の発表者と所要時間を決定。会開始前に流すCD-R等を確認。
2. 本部口の決算・予算と特別会計について 承認  
20年度決算、21年度予算及び特別会計が再度承認された。
3. 国際女医会西太平洋地域会議について 承認  
1) 開催期日は2011年5月27日(金)～29日(日)、総会と同時開催。  
2) 開催場所は東京、会場は京王プ

- ラザホテル。
4. 次々期総会開催地について 承認  
次々期も東京で開催。3回連続に東京開催となるため東京都支部連合会会長へ協力依頼の挨拶状を会長より送付する。
5. 日本女医会案内パンフレットについて 承認  
資料に基づき検討。総会時に配布出来るように準備する。
6. 会費の確認 承認  
正会員は12,000円、但し新卒1年後までは無料。正会員のうちWeb会

- 員は10,000円。定款第7条(準会員)に新たに学生会員の項目を作り、総会で審議にかけることを決定。学生会員については会費を無料とする。
7. ブロック懇談会出向について 承認  
9月13日福島、11月15日神戸、1月17日石川、2月に福井で開催を承認。詳細は庶務部に一任することも承認。
8. 職員の勤務と給与について
9. その他  
「性と健康を考える女性専門家の会」より総会シンポジウムへの後援依頼があり、承認される。 以上

### 会員動静 (2009年6月16日現在・敬称略)

新卒入会	間 潤 美紗 (平20年卒)	都 下 西
入 会	木葉松洋子 (昭63年卒)	北 海 道
	蓮沼 直子 (平6年卒)	秋 田
	小林 靖子 (平6年卒)	群 馬
	川島有実子 (平13年卒)	栃 木
	望月 善子 (昭58年卒)	栃 木
	杉本 由理 (昭18年卒)	茨 城
	肥田 和恵 (平8年卒)	埼 玉
	松岡 雅美 (平3年卒)	埼 玉
	峰岸 敦子 (昭55年卒)	埼 玉
	川上 礼子 (平15年卒)	洪 谷
	山下 啓子 (平61年卒)	愛 知
	桑原 三華 (平5年卒)	愛 知
	萬谷 京子 (平7年卒)	愛 知
	富永八千代 (昭44年卒)	福 井
	井上 節子 (昭24年卒)	大 阪 第1
	清水 聖保 (平2年卒)	大 阪 第1
	武曾 恵理 (昭51年卒)	大 阪 第1
	菅尾 光子 (昭56年卒)	大 阪 第1
	小川 智子 (昭58年卒)	大 阪 第2

入 会	亀廣 摩弥 (平7年卒)	大 阪 第2
	小畑 優子 (平2年卒)	大 阪 第2
	前田 慶子 (昭24年卒)	大 阪 第5
	宮本 満美 (昭53年卒)	大 阪 第5
	南 路子 (昭34年卒)	大 阪 第7
	巽 祐子 (昭60年卒)	大 阪 第9
	佐野由紀子 (昭52年卒)	大 阪 第9
	林 麻美 (昭56年卒)	大 阪 第9
	久保 心子 (昭24年卒)	大 阪 第10
	谷野 桂子 (昭39年卒)	大 阪 第10
	仁科 一江 (昭57年卒)	大 阪 第10
	南 美美子 (昭45年卒)	大 阪 第10
	飯田 明子 (昭40年卒)	兵 庫
	片岡 仁美 (平9年卒)	岡 山
退 会 故	34名	
	大場 幸子 (昭23年卒)	宮 城
	斉藤 富美 (昭17年卒)	栃 木
	今野 信子 (昭10年卒)	新 宿
	関本 久栄 (昭15年卒)	静 岡
	水谷たづ子 (昭24年卒)	愛 知

#### 編集後記

残暑厳しい折から日本女医会誌199号をお届けします。

広報部では、すでに200号記念号の準備を進めています。

またこれを機にHPの更新や勧誘リーフレットの刷新を企画しています。

偉大なる大先輩・吉岡彌生先生の意思について発展してきた本会が姿勢を明確にし、さらに発展するためには不可欠な作業と、部員一同がんばっています。

しかし、この暑さには少々ばて気味。

年々暑くなるような気がするの、私の年のせいでしょうか。

「レモンの下の氷がカラと音たてぬ 音なく崩れる 画像の氷河」

(澁谷きよみ)

#### 寄付者一覧(敬称略)

氏 名	支 部 名
石原幸子	練馬支部

### 日本女医会誌

復刊第199号 2009年7月25日発行

編集人 対馬ルリ子

発行人 小田泰子

制作 あづま堂印刷製

発行所 社団法人 日本女医会

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル

TEL 03-3498-0571 FAX 03-3498-8769

<http://www.jmwa.or.jp>

e-mail : [office@jmwa.or.jp](mailto:office@jmwa.or.jp)